

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

エリザベト音楽大学
大学院音楽研究科

令和5年3月

エリザベト音楽大学 教職課程認定学部・学科一覧

大学院 （音楽研究科 音楽学専攻）

大学院 （音楽研究科 宗教音楽学専攻）

大学院 （音楽研究科 声楽専攻）

大学院 （音楽研究科 器楽専攻）

大学としての全体評価

エリザベト音楽大学大学院音楽研究科は、修士課程（音楽学専攻、宗教音楽学専攻、声楽専攻、器楽専攻）、博士後期課程から構成されている。その中で教員免許に関しては、中学校専修免許状（音楽）及び高等学校専修免許状（音楽）の取得が可能である。

本学は、地方の小規模な音楽単科大学ではあるが、中四国地方で唯一の博士課程を有する音楽大学の大学院であり、演奏研究の高い専門技術を備えた音楽科教員を輩出し、各方面から評価を得ていると自負している。これは、専修免許状を取得した多くの修了生が、各自の専門性を生かした音楽教育を実践し、芸術文化の発展に教育の面から寄与していることによるものと考えられる。

今回の自己点検評価報告義務化に伴い、教職課程委員会が中心となって教職員が協働で自己評価を実施した。その結果、全国私立大学教職課程協会の示す取り組み観点例について、概ね実施できていることを確認した。今後は、恒常的な自己点検評価の仕組みづくりが大きな課題であり、本学大学院における教員養成の質保証に向けて、取り組みを進めたいと考えている。

エリザベト音楽大学

学長 川野祐二

目次

I	教職課程の現況及び特色	3
II	基準領域ごとの自己点検評価	4
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
	基準領域 2 学生の確保	6
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	7
III	総合評価	10
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	11
V	現況基礎データ一覧	12

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：エリザベト音楽大学 大学院音楽研究科
- (2) 広島県広島市中区鞆町4-15
- (3) 学生数及び教員数 (令和4年5月1日現在)
 - 学生数：音楽研究科（中専修・高専修） 履修8名/全体29名
 - 教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも、中高） 20名/全体31名

2 特色

エリザベト音楽大学大学院音楽研究科は、中四国において数少ない音楽を専門とする大学院である。広い視野と知見を備えるための特殊研究等の学びをとおして、専門的な知識・技術や芸術表現における豊かな経験値と、教育の場で地域の芸術とりわけ音楽文化の進展に寄与する力を身に付けた人材を育てることを目的としている。

教員免許に関しては、中学校専修免許状（音楽）及び高等学校専修免許状（音楽）の取得が可能となっている。

II 基準領域ごとの自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標

① 状況説明

本大学院では、教育理念「教養・実力・慈愛のある音楽家の育成」に基づき、ディプロマ・ポリシーを設定している。これを踏まえ、本大学院の教職課程（中専修、高専修）では、令和4（2022）年度に教職課程教育の目的・目標と育成を目指す教師像について整理し、それらに基づく学修成果を具体化した。これらの目的・目標、教師像、学修成果は、大学ホームページに掲載している。また、全学的な教職課程を司る委員会として、教職課程委員会を設置し、同委員会において年間の行動計画を立てている。

② 長所・特色

本大学院の教職課程では、育成を目指す教師像の中に、大学院における音楽のより高度な専門的学びを生かすことのできる教師像を設定している

③ 取り組み上の課題

本大学院の教職課程では、これまで教職課程オリエンテーションを実施していなかったが、高度な専門性を生かした大学院の教職課程として、履修者への明確な意識づけを行う方策を検討する。

<根拠となる資料・データ等>

資料 1-1-1 : エリザベト音楽大学大学院音楽研究科「教職課程(中・高)履修の手引き」

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

① 状況説明

本学では、教職課程を全学的に統括する委員会として教職課程委員会が組織されており、学部同様、本大学院の教職課程の運営も担っている。委員は、教養・教職主事、教職課程の授業を担当する専任教員、そして教職課程担当の事務職員から構成されている。

教員配置は、教職課程認定基準を踏まえて適切に配置されている。

I C T教育環境に関して、電子黒板や少数のタブレットも配置している。大学構内でもW i - F i環境を整え、授業の中で、学生がI C T機器を積極的に活用している。

教職課程の質的向上を目指して、大学院全体と連動した授業評価アンケートを実施し、授業改善に取り組んでいる。アンケートで寄せられた学生からの意見に対する教員のコメントは、大学ポータルサイトで公表しており、学生はそれを自由に参照することができる。

② 長所・特色

特になし

③ 取り組み上の課題

本大学院の教職課程におけるカリキュラムについては、これまでの再課程認定の際にも検討が行われ、必要に応じて改定してきたが、教職課程認定基準の改正に伴う変更に対応するための改定であった。したがって、質保証の観点からの恒常的な自己点検評価には至っておらず、今後の課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料 1－2－1 : エリザベト音楽大学大学院音楽研究科「教職課程（中・高）履修の手引き」

基準領域 2 学生の確保

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

① 状況説明

本大学院の教職課程（中専修、高専修）では、教職課程で学ぶにふさわしい学生像を設定している。

② 長所・特色

本大学院の教職課程では、ほとんどの履修者が一種免許状を既を取得して入学している。そのため、履修者が基礎的な教員の資質・能力を備えた状態であると捉え、さらに音楽の専門的能力を深めるための教育課程を編成・実施している。

③ 取り組み上の課題

教職課程で学ぶにふさわしい学生像を設定しているが、その周知は十分とはいえない。今後、教職オリエンテーション等とおした履修者への意識づけを計画する。

<根拠となる資料・データ等>

資料 2-1-1 : エリザベト音楽大学大学院音楽研究科「教職課程（中・高）履修の手引き」

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

① 状況説明

教職関係の就職情報については各縣市等から提供される情報を教養・教職主事が集約し、学内設置の教職掲示板に掲載する他、希望する学生に対して個別に提供している。また、教職学習室を設置し、落ち着いた学修環境を整えている。

教育関係者の講話や、広島県・広島市教育委員会による公立学校教員採用試験、臨時的任用教職員や非常勤講師等の募集説明会を学内で開催することにより、学生の教職への意欲・関心を高めている。その他の各県の教員採用試験情報や私学の募集情報および教員採用試験対策講座等のお知らせは、学内ポータルサイトや学内掲示をとおして適宜告知している。

② 長所・特色

音楽文化学科・演奏学科では、協同出版の協力を得て、2日間に渡る教員採用試験対策を目的とした特別講座を毎年開講している。受講料は無料とし、本学の教職課程履修者の希望者が受講可能である。講義内容は、教育法規、特別支援教育、教育原理、生徒指導、学習指導要領等についてであり、主に教員採用試験の第一次試験対策を目的としている。

さらに教員採用試験において、1次の出願時点から専任の実務家教員が指導を行い、1次合格者には模擬授業、実技や面接などの2次試験対策を実施している。

③ 取り組み上の課題

現状、教職課程履修生全員が教員採用試験等を必ずしも受けているわけではなく、その原因の把握と改善に向けた取り組みを検討している。また、教職課程履修生全員に各種情報提供を行っているが、個別に面談等は実施しておらず、包括的なキャリアサポートが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料 2－2－1：エリザベト音楽大学大学院音楽研究科「教職課程（中・高）履修の手引き」

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

① 現状説明

本大学院の教職課程では、専修免許状取得のための大学の独自に設定した科目として、教科に関する専門的事項を当てている。それらの科目は、教育の理念「教養・実力・慈愛のある音楽家の育成」の中でも、特に実力について、大学院に相応しいより専門的内容を身に付けることを目的としたものである。

課題発見や課題解決能力の育成のために、授業内ではプレゼンテーションやグループディスカッションを積極的に実施している。

シラバスについては、大学ポータルサイト、大学ホームページに電子シラバスを公開しており、学修内容と評価方法を明示している。

② 長所・短所

音楽を専門とする大学院の教職課程として、各専攻の専門指導（論文指導、実技レッスン）に加え、音楽教育の専門科目や演奏理論研究の科目を、専修免許状取得要件の単位数に含むことができるよう設定している。

③ 取り組み上の課題

特になし。

<根拠となる資料・データ等>

資料 3-1-1-1 : エリザベト音楽大学大学院音楽研究科「教職課程（中・高）履修の手引き」

基準項目 3－2 実践的指導力養成と地域との連携

① 現状説明

希望する者には学校ボランティア等、学校現場における実践的な活動に参加する機会を設定する。大学院における学修、研究の状況に応じて、可能であれば非常勤講師としての現場勤務、学童クラブ等の指導員としての働きに従事する機会も得ることができる。これは、実践的経験から指導力の向上を図り、教育者としての資質を高めることを目指すとともに、キャリア支援的側面をもつ取り組みである。

本学の教養・教職主事は「広島市教員等育成に関する協議会」、「広島県小学校・中学校・高等学校教育研究会音楽部会」「広島地区教育実習研究連絡協議会」において、県内の私立大学及や県市の教育委員会との連携を図り、学校現場における実習の最前線の情報収集・情報共有に努めている。また「全国私立大学教職課程協会」及び「中国・四国地区私立大学教職課程研究連絡協議会」に加盟し、私立大学教職課程として、各種情報の共有を行っている。

② 長所・特色

特になし

③ 取り組み上の課題

教職課程履修生全員が教員採用試験等を必ずしも受けているわけではなく、積極的に教職への興味・関心を持ってもらえるような方策を検討する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

資料 3－2－1：エリザベト音楽大学大学院音楽研究科「教職課程（中・高）履修の手引き」

III 総合評価

本大学院音楽研究科において評価できる点は、次のとおりである。

評価できる点

第一に、小規模な大学院の特性を生かし、教職課程においても、学生一人ひとりに対するきめ細やかな学修体制を整えている。

第二に、音楽大学大学院の教職課程として、学士課程よりもさらに高度な専門性を備えた教員を育成している。

他方、本大学院音楽研究科における教職課程の課題は、下記の点に集約される。

課題

第一に、ICT教育に関する授業内容のさらなる充実が挙げられる。学校現場の実態に即した授業展開の実現に向け、近隣の学校等との連携を図る必要がある。

第二に、教職課程オリエンテーションを実施していなかったため、高度な専門性を生かした大学院の教職課程として、履修者への明確な意識づけを行うオリエンテーション等の実施を検討する。

第三に、教員採用試験受験者及び合格者の輩出に向けた様々な取り組みが必要である。

以上に加えて、全体として大きな課題となったのは、教職課程の自己点検評価の改善と継続である。今回の自己点検評価作業を基に、教職課程の積極的改善に向けたアクション・プランを立て、継続的な点検を実施する。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、全学的組織である教職課程委員会が中心となり、次の手順で進めた。

第1プロセス

教職課程委員会において「教職課程自己評価点検評価報告書」作成の手引きに基づき、自己点検評価の実施方針・実施手順の決定を行い、報告書の作成手順についても確認した。そして、教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項についても報告書作成時までに点検することとした。

第2プロセス

教職課程委員会メンバーの中から、ワーキング・グループを立ち上げ、自己点検評価の対象項目を整理した後、評価及び報告書執筆担当者案を策定した。教職課程委員会では、その提案を受け、各執筆担当者による作業を開始した。

第3プロセス

各執筆担当者による評価結果及び報告書掲載用の原案を作成した。教養・教職主事がそれらを取りまとめ、報告書案を作成した。

第4プロセス

報告書案について、ワーキング・グループ内で検討し、最終案を決定した。

第5プロセス

教職課程委員会にて最終案を確認後、学長及び研究科教育委員会に報告し、承認を得た上で情報を公表した。

第6プロセス

教職課程委員会は、自己点検評価によって確認した課題を、大学全体の事業計画の一部として改善・向上に向けたアクションプランを策定した。学長及び研究科教育委員会に報告し、全学連携のもと改善・向上活動を進めた。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 エリザベト音楽大学					
大学・学部名 エリザベト音楽大学 大学院音楽研究科					
学科・コース名（必要な場合） 音楽学専攻、宗教音楽学専攻、声楽専攻、器楽専攻					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度修了者数					17名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					11名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					11名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					2名
④のうち、正規採用者数					0名
④のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	14名	11名	5名	1名	なし
相談員・支援員など専門職員数					1名